

会長挨拶

兵庫腎疾患対策協会 会長

吉永 和正

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行したことで、コロナ社会も一つの区切りを迎えました。2020年1月にわが国で第1例が確認されて以降、国を挙げて対策に取り組んで来ました。その結果、社会活動は大きな制限を受けることとなり、兵庫腎疾患対策協会も例外ではなく、この3年間、ほとんど活動ができませんでした。

兵庫腎疾患対策協会はやっと活動を再開できるようになりましたが、この時期に副会長に野島道生先生(兵庫医科大学特別招聘教授)、新たな幹事に兵頭洋二先生(神戸大学特命講師)を迎えることで、新しい方向へ動き出すための足固めができました。

6月1日の読売新聞には「NPO法人難病患者支援の会(東京)による臓器あっせん事件を受けて、自民党の臓器移植に関する議員連盟が31日、病院と臓器あっせん機関が患者情報を早期に共有する制度の創設を厚生労働省に提言した。」という記事が載っていました。韓国では2007年頃からすべての脳死患者を確実に把握することで、人口あたりの臓器提供者数がわが国の10倍以上に伸びたことが知られています。わが国にもやっとその動きが出てきたようです。

臓器提供数を増やすためには国の制度を整備することが重要ですが、その一方で一般市民の認識を変えてゆく必要もあります。ここで大切なことは臓器提供を目指すのではなく、多くの人々が確実に意思表示できることです。そのためには話し合う機会がなければなりません。ACP(人生会議)もその機会になるでしょうが、子供の教育現場もその重要な機会です。

このような視点から、今年度は具体的な活動に取りかかりたいと考えています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

COLUMN コラム



国際ソロプチミスト神戸東 会長

中村 満里子

35年前、1988年、私たち国際ソロプチミスト神戸東のクラブ定例会の卓話で、クラブ会員の坂井瑠実先生と県立西宮病院腎移植センターの福西孝信先生が、「腎不全の根治療法は腎移植しかなく、多くの待機者がいるのに兵庫県の腎移植が進まない・・・」と熱くかたられました。

それがその2年後の「兵庫腎疾患対策協会」誕生のきっかけでした。小さな一声がこのように大きな力となったのです。

私たち国際ソロプチミスト神戸東はこのたび認証40周年を迎えます。

40年前、「ソロプチミストの組織に入って、何か社会のお役に立ちたい・・・」という26名の女性によって誕生した小さなクラブでした。阪神淡路大震災やこの度のコロナパンデミックなどで協会と同じように活動が困難な時が多々ありました。

しかし、この40年の間に残した様々な奉仕の足跡は、兵庫腎疾患対策協会のように今も消えることなく社会のお役に立っていると信じて、これからも心を合わせて奉仕活動を続けていきたいと思っております。

兵庫県下における腎移植の現状

1997年に臓器移植法が施行されて、今年で早くも26年が経過します。当時医学生であった私はニュースで知るばかりで、特段の思いもなく眺めていた記憶があります。2001年に大学を卒業し、そこで担当した生体腎移植患児、ご家族との出会いから腎移植への興味を抱き、2002年12月に当時長谷川昭教授が主宰されておられた東邦大学腎臓学講座にて勉強させていただく機会をいただきました。その後川崎医大泌尿科を経て2005年に大学院生として兵庫県に帰ってまいりましたが、そこから兵庫県での腎移植に関与させていただくことになりました。当時県立西宮病院は永野俊介先生、市川靖二先生、兵庫医科大学では野島道生先生、樋口喜英先生、神戸大学には藤澤正人先生、竹田雅先生などの諸先輩方がおられ、さまざまな研究会はもちろん、臓器摘出の際はご一緒させていただいたことを現在もよく覚えております。臓器移植法が施行され、脳死が臓器移植に限り人の死とされ、脳死移植への道が開けたといえど、当時の腎摘出は心停止下の摘出が主でありました。各施設より人数が集められ数日泊まり込みは当たり前で、諸先輩方が共に狭い部屋で雑魚寝をし、場合によっては手術室ロッカーの床で寝ている姿を拝見し、なんという世界に飛び込んでしまったのだろう！驚愕したものです。しかしその経験は何者にも代えがたく、この時代の思い出は深く胸に刻まれており、私自身の移植医人生において大きな財産となりました。

2010年の臓器移植法改正と時を同じくし、私は12年ほど関東圏で移植医療に従事しておりましたが、2022年春より神戸大学石村武志先生の後任として改めて兵庫県に戻ってまいりました。県立西宮病院は西村憲二先生の後任として岸川英史先生が、そして兵庫医科大学では今春退官された野島先生の後任を山田祐介先生が、それぞれ引き継がれ兵庫県の移植医療を支えております。様変わりしたのは諸先生の顔ぶれだけではなく、法改正によりすっかり中心となった脳死移植でした。臓器摘出の様相もすっかり様変わりし、日本臓器移植ネットワークの掛け声の元、全国より各施設の医師が集合し、流れるようにスマートに大事な臓器を摘出し、全国で移植を待つ患者さんの元へと戻っていかれるといったものでした。

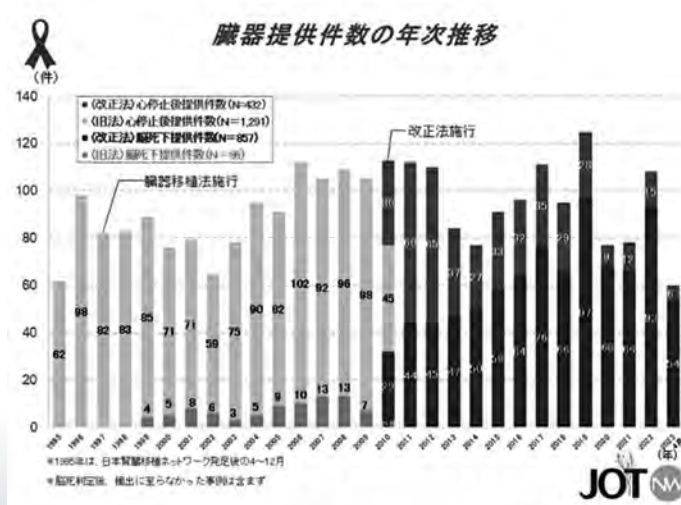
2019年末から始まったコロナ禍の影響で、全国的には例年おおよそ80~100件で推移していた臓器提供件数は2020年には77件、2021年は78件と低迷しておりました。例に洩れず兵庫県下でも臓器提供数、臓器移植数は低迷し、2020年は4件、2021年は5件でありました。コロナ禍もひと段落が見え始めた2022年には全国で108件の提供をいただき、さらに2023年に至っては4月末現在で63件を数え、2019年に記録した125件の過去最多提供数を大幅に凌ぐペースで提供をいただいている現状です。兵庫県下も同様に2022年は8件の臓器提供をいただくことができました。また私たち神戸大学でも2022年は過去最多の9件の献腎移植を行うことができました。今後さらなる増加の可能性もあり、我々移植医もその最大の恩恵を受ける慢性腎不全患者さんへ、ドナーおよびそのご家族の思いが届けられるよう、身の引き締まる思いを抱いております。

下記の数字を見てもお分かりのように兵庫県における臓器提供数は他都道府県と比べても比較的多く推移しております。関東都県における勤務を経験させていただいた私の感想としては、これは長らく臓器移植に関わってこられた多くのコーディネーター、移植医による啓蒙活動と、それに応えていただいた救急救命医や脳神経外科医の先生方、摘出施設のコメディカルの方々のご助力、ご協力の賜物であると考えております。この流れを絶やさぬようにさらなる啓蒙活動、確実な臓器提出・移植の遂行、他科の先生方およびコメディカルの方々との連携を図ることが肝要であると考えております。

しかし果たして現状で現在の日本の臓器提供数は満足される数に達しているのでしょうか？

INTERNATIONAL REGISTRY IN ORGAN DONATION AND TRANSPLANTATION による最新のデータによると人口 100 万人あたりの死体腎の割合はわずか 1 人に過ぎず、先進国どころか多くの発展途上国にも及ばず、深く下位に沈んでいる現状が長く続いております。その原因はどこにあるのでしょうか？興味深いデータとして平成 29 年に施行された内閣府による「移植医療における世論調査」における概要、にみる事が可能です。私も若い頃から上司から「日本人は臓器移植への関心が乏しい」、「日本人は他人を思いやる気持ちが薄いんだ」、「日本人は他者への思いやりに乏しい」などなど多くは世論への反感を多く耳にする機会がありました。前述の調査によると半数以上の国民は臓器移植への関心があり、40% を超える国民が臓器提供への意志を示していることがわかります。また同時に我々医療者側の対応の不備が明らかとなる結果が示されています。果たして我々医療者の認識の誤りはなかったのか？と考えられる結果です。ぜひ一読ください。

今後我々には臓器移植数の(急激な?)増加、医師の働き方改革、さらなる法整備などまだまだ新しい課題が山積しております。私自身、兵庫県下の皆様方と一緒に悩みながら、さらなる腎疾患治療の推進へとつながる一助となれば幸いです。本会を通じて皆様方との交流を楽しみにしております。



事業報告

2022年度事業報告 (2022年5月1日～2023年4月30日)

- 第32回オンライン総会開催 2022年6月30日
- 会報『Gift of Life』Vol.30発行 (8月)
- ホームページバナー広告 2022年度募集、掲載 (12月)
- 共催、後援、協賛事業
 - NPO法人 兵庫県腎友会第22回大会の後援
2022年11月20日 神戸常盤アリーナ
 - NPO法人 兵庫県腎友会
「兵庫慢性腎臓病シンポジウム2022」の後援
2023年3月12日養父市

2023年度事業計画(案) (2023年5月1日～2024年4月30日)

- 第33回総会開催 2023年7月8日 ホテル竹園芦屋
- 会報『Gift of Life』Vol.31発行 (7月)
- ミニ講演会開催
 - 兵庫県下の腎移植、臓器移植の現状
 - TPM経験者に聞く日本の臓器移植の現状と課題
- 兵庫県下学校への臓器移植についての出前授業の支援
- ホームページバナー広告 2023年度募集、掲載
- 当協会の目的とする腎疾患対策、腎移植推進のための啓発事業を企画実行する。
- 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植のための講演会、シンポジウム、啓発事業などに協力する。
- 関連団体、兵庫県の移植コーディネーターへの支援

2023～24年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

名誉会長 神戸大学名誉教授 守殿貞夫
医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 名誉院長

会長 医療法人協和会 吉永和正
副理事長

副会長 医療法人社団 坂井瑠実クリニック 理事長 坂井瑠実 兵庫医科大学特別招聘教授 野島道生
国際ソロブチミスト神戸東 てらおクリニック

幹事 いしむら腎泌尿器クリニック院長
神戸大学泌尿器科非常勤講師
石村武志

兵庫県臓器移植コーディネーター
今村友紀

小児科医
やまゆりクリニック西宮北口分院 院長
尾迫貴章

兵庫医科大学 腎・透析内科教授
血液浄化センター長
倉賀野隆裕

兵庫県臓器移植コーディネーター
杉江英理子

兵庫県臓器移植協議会 事務局長
兵庫腎移植の会 副会長
高見敬一

医療法人
ただだクリニック 理事
竹田雅

医療法人永仁会
理事長
永井博之

兵庫医科大学 内科学
腎・透析科 講師
長澤康行

兵庫医科大学 名誉教授
特定医療法人五仁会 住吉川病院 名誉院長
中西健

医療法人社団 一陽会 服部病院
腎臓内科部長・透析室センター長
西慎一

(有)芦屋川プランニング代表取締役
国際ソロブチミスト神戸東
八馬富久子

神戸大学大学院医学研究科
腎泌尿器科学分野 特命講師
兵頭洋二

神戸大学学長、神戸大学大学院医学研究科
腎泌尿器科学分野 教授
藤澤正人

NPO法人 兵庫県腎友会
会長
松菱理恵子

まつもと泌尿器科
院長
松本修

NPO法人 兵庫県腎友会
相談役
森利孝

眼科医
国際ソロブチミスト神戸東
安井多津子

兵庫医科大学 泌尿器科
主任教授
山本新吾

会計監査 国際ソロブチミスト神戸東 会長

中村満里子